口蹄疫　とは

【多量のよだれ】

1　原因（病原体）
　口蹄疫ウイルス
　（Picornaviridae Aphthovirus）

2　感受性動物
　牛、めん羊、山羊、豚、
　水牛、鹿、いのしし等

3　症状
　突然40～41℃の発熱、元気消失に陥ると同時に多量のよだれがみられ、口、蹄、乳頭等に水疱（水ぶくれ）が形成され、足を引きずる症状がみられる。

4　発生状況
（1）国内：
　明治41年（1908年）東京、神奈川、兵庫、新潟　５２２頭
　平成12年（2000年）宮崎（3～4月：3戸），北海道（5月：1戸）
　　患畜・疑似患畜 ７４０頭 ［９２年ぶりの発生］
　平成22年（2010年）宮崎（292例）患畜・疑似患畜210,714頭［10年ぶりの発生］
　　※）日本は平成23年２月４日に清浄国に復帰。

（2）海外：オセアニアと北米以外の世界中で発生がみられる。

5　診断
（1）臨床症状の確認とともに、遺伝子又は抗体の検出を行う。

（2）水疱材料等からのウイルス分離を行う。

6　予防法
　我が国では、多くの諸外国と同様に、原則として感染動物の摘発ととう汰による清浄化を実施。また、緊急接種用の不活化ワクチンの備蓄、水際での厳重な検疫を実施。
　なお、本病の常在国等では不活化ワクチンが使用されている。しかし、ワクチン接種動物は、①感染を完全に防御できず、②感染動物はワクチン接種動物との判別が難しいことから、本病を見逃し、感染源となる可能性がある。

7　治療法、対策
（1）治療は行わない。

（2）発生した場合は，家畜伝染病予防法に基づき、まん延防止のため家畜の所有者によると殺が義務付けられている。